



2004年12月16日
株式会社ティー・ワイ・オー
(証券コード 4358)

TYO GROUP

当社グループは、当社 (株式会社ティー・ワイ・オー) 及び連結子会社19社により構成されております。当グループは、「マルチブランド戦略」を核とした「クリエイティブビジネス都市」の開発を目指し、広告映像事業、エンタテインメント事業、コンテンツ・ソリューション事業を展開しております。当社を中心とした20社のグループは、グループ各社が属する映像マーケットにおけるトップ・ブランドの確立を目指すと同時に、様々な映像コンテンツ・ビジネス領域へ事業拡大を行いつつ、グループ全体として、既存の映像コンテンツ・ビジネスにとらわれない新しい映像コンテンツ・ビジネスモデルを実現することを目標としております。



業績推移 (連結)

当社グループは、独自の「マルチブランド戦略」を加速し、前期末に14社であったグループ会社数は、現在20社に拡大、更に新規設立やM & Aの案件が進行中です。

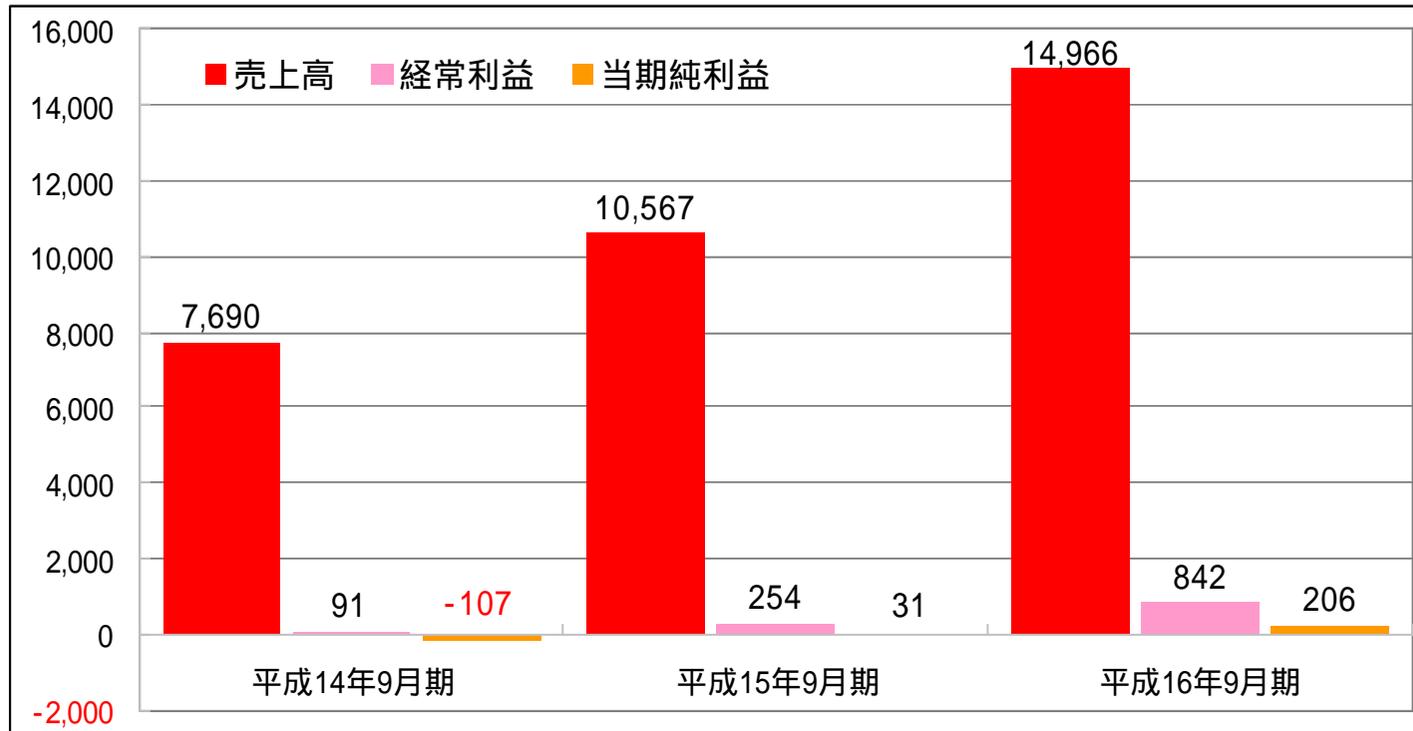
当連結会計年度の業績は、

売上高 14,966百万円 (前年同期比 41%増)

経常利益 842百万円 (前年同期比 231%増)

当期純利益 206百万円 (前年同期比 559%増)と増収・増益となりました。

(単位:百万円)



連結貸借対照表 TOPⅩ

(単位:千円)

		22期	23期	増減
資産の部	流動資産	5,079,582	6,830,750	1,751,168
	現金及び預金	1,325,885	2,050,142	724,257
	受取手形及び売掛金	2,567,238	2,882,034	314,795
	たな卸資産	907,176	1,662,453	755,277
	固定資産	3,097,640	4,240,574	1,142,934
	有形固定資産	1,302,269	1,531,493	229,224
	無形固定資産	489,234	1,036,469	547,235
	営業権	133,697	89,131	？44,566
	連結調整勘定	286,036	700,354	414,317？
	その他	69,500	246,983	177,483
	投資その他の資産	1,306,136	1,672,611	366,474
資産合計	8,177,223	11,071,324	2,894,101	
負債の部	流動負債	5,588,288	7,890,614	2,302,325
	買掛金	1,322,137	1,876,217	554,079
	短期借入金	3,299,852	4,007,866	708,013
	前受金	380,799	892,927	512,127
	固定負債	1,244,212	1,545,516	301,303
	社債	100,000	235,000	135,000
	長期借入金	762,850	868,868	106,017
	負債合計	6,832,500	9,436,130	2,603,629
少数株主持分	93,339	1,932,897	99,949	
資本の部	資本金	649,691	727,992	78,301
	資本剰余金	612,216	691,414	79,197
	自己株式	194,797	275,645	？80,848
	資本合計	1,251,382	1,441,905	190,522
	負債、少数株主持分及び資本合	8,177,223	11,071,324	2,894,101

TOPIX

更に資金効率を高めるため現預金を圧縮し、短期負債返済促進。グループ売上高の増加に伴う売掛金およびたな卸資産の増加。特にTV-CM事業においては、3月と9月に売上高が集中するため。

(株)エムワンプロダクション営業権
(2006年9月期償却終了)

M & Aに伴う連結調整勘定の増加
(HAL、SASSO、NEXIS、GENCO)

24期償却予定
= 176,329千円

グループ売上高の増加に伴う短期運転資金。特にTV-CM事業においては、3月と9月に売上高が集中するため、期末は通常より短期負債多く貸借対照表が悪化して見えるが問題はない。

M & Aに伴う固定負債
(社債と長期借入金)の増加

第2回無担保新株引受権付社債2,211,472株、第7回無担保新株引受権付社債50,000株行使による新株発行によるもの。

普通株式426,462株を自己株買い付け
(平均単価 約190円)

連結損益計算書 TOPIX

(単位:千円)

	22期	23期	増減
売上高	10,567,665	14,966,313	4,398,647
売上原価	8,122,092	11,542,904	3,420,811
売上総利益	2,445,573	3,423,408	977,835
販売費及び一般管理費	2,138,736	2,442,409	303,673
役員報酬	609,184	789,898	180,714
給与賞与	384,806	397,000	12,194
連結調整勘定償却	42,314	138,881	96,567
営業権償却	44,565	45,224	659
営業利益	306,837	980,999	674,162
営業外収益	51,915	23,126	28,788
営業外費用	104,673	162,071	57,397
支払利息	58,513	82,622	24,109
売上債権売却損	12,834	23,428	10,594
経常利益	254,079	842,055	587,976
特別利益	8,000	-	8,000
特別損失	78,263	89,922	11,658
収用に伴う固定資産処分損	-	11,041	11,042
過年度役員退職慰労引当金繰入額	60,836	65,136	4,300
税金等調整前当期純利益	183,815	752,133	568,317
法人税、住民税及び事業税	215,179	453,839	238,660
法人税等調整額	94,864	10,043	104,907
少数株主利益	32,167	81,732	49,565
当期純利益	31,329	206,518	175,188

TOPIX

M & A効果により前期比約41%の増収。
売上総利益についても前期比40%の増益。
今後、売上原価コントロールを強化し、現在23%前後の売上総利益率を向上させていく方針。

販売費および一般管理費については、前期比14%の増加と売上総利益の伸長率に比べ、低水準を確保した。23期の連結調整勘定償却額は138百万円と前期比96百万円増加。
償却を加味した実質的な営業利益は1,166百万円となり、設立以来の最高益を実現した。

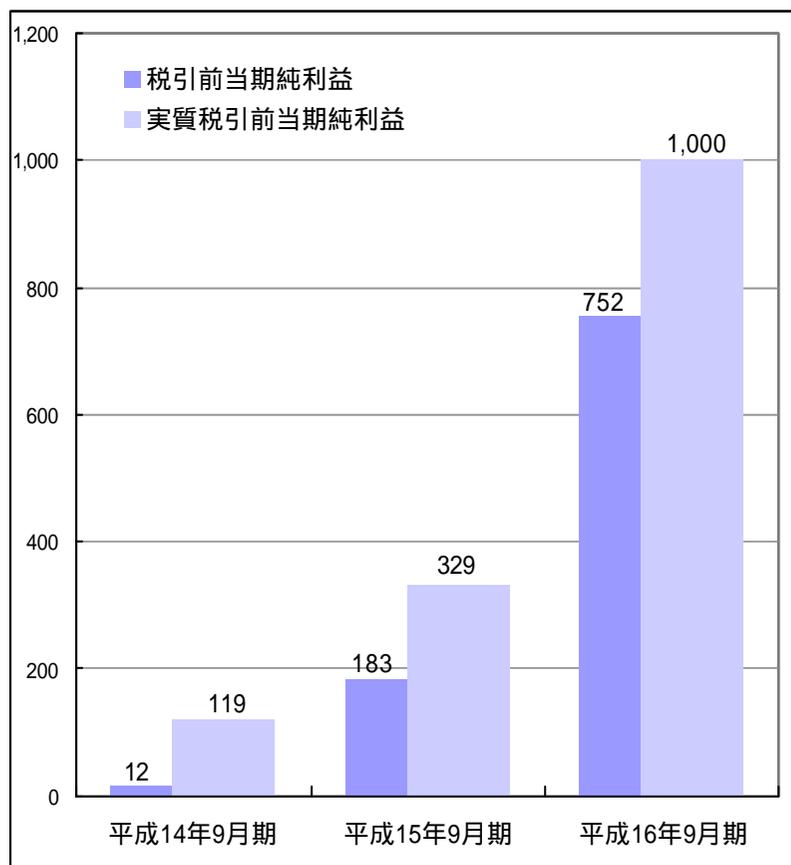
売上高増加に伴う短期負債とファクタリングの増加およびM & A資金を借入で賄ったことによる支払利息の増加。

経常利益は前期比232%の増益。

東京都道路拡張に伴う投資不動産の売却損。
過年度役員退職慰労引当金繰入は2005年9月期で完了。

赤字子会社および連結調整勘定償却の影響により、税率が高くなっており、赤字子会社が黒字化することや償却の完了により、当期純利益は増加する見込み。

税引前当期純利益、実質税引前当期純利益の推移



販売管理費に含まれる営業権償却額、連結調整勘定償却額を控除した実質的な営業利益および、

特別損益に含まれる過年度役員慰労引当金を控除した実質的な税引前当期純利益は下表のようになります。



(単位 :百万円)

	平成14年9月期	平成15年9月期	平成16年9月期
売上高	7,690	10,567	14,966
売上原価	5,758	8,122	11,542
売上総利益	1,932	2,445	3,423
販売管理費	1,753	2,138	2,442
営業権消却	44	44	45
連結調整勘定	3	42	138
営業利益	179	306	980
実質営業利益	226	392	1,166
営業外損益	87	52	139
経常利益	91	254	842
特別損益	79	7	89
過年度役員退職慰労引当金	60	60	65
税引前当期純利益	12	183	752
実質税引前当期純利益	119	329	1,000

加算

連結キャッシュ・フロー TOPIX

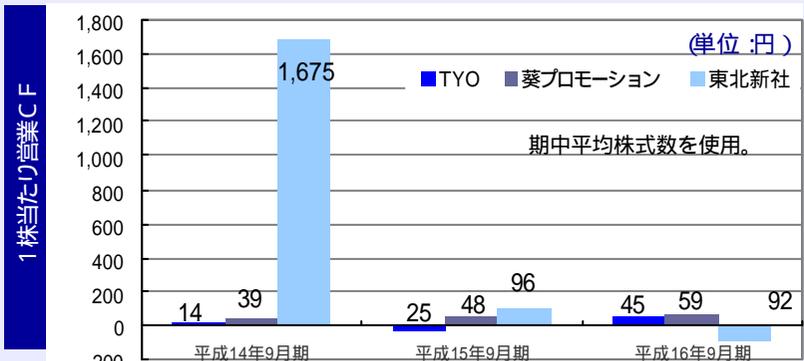
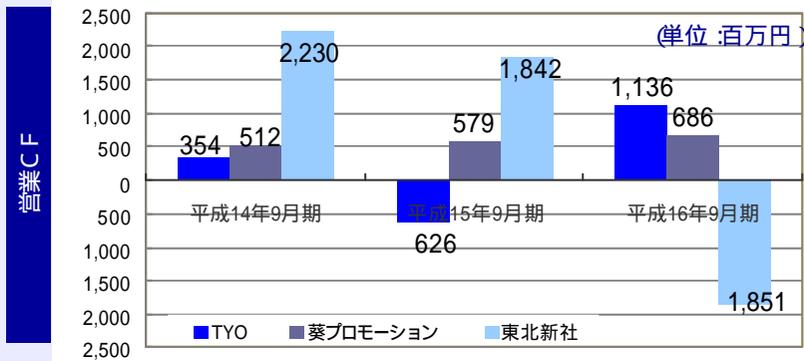
(単位:千円)

	22期	23期	増減
営業活動によるCF	626,335	1,136,780	1,763,116
投資活動によるCF	510,685	866,660	355,975
財務活動によるCF	1,166,657	485,941	680,715
現金及び現金同等物に係る換算差額	356	2,331	1,975
現金及び現金同等物の増加額	29,280	753,731	724,450
現金及び現金同等物の機首残高	1,267,130	1,296,411	29,280
現金及び現金同等物の期末残高	1,296,411	2,050,142	753,731

TOPIX

営業活動によるCFは、税金等調整前当期純利益が増加したこと、連結調整勘定償却が増加したことおよび売上債権が減少したことによるもの。
 投資活動によるCFは、新規連結子会社の取得による支出と無形固定資産の取得(連結調整勘定)による支出によるもの。
 財務活動によるCFは、他のCFが改善したことにより借入による調達額が減少したものの。

営業キャッシュ・フローの改善 (上場3社比較)



TYOは9月本決算値、葵プロモーション、東北新社は3月本決算値を使用しております。

1株当たり営業CF株価倍率比較

(単位:円)

	TYO	葵プロモーション	東北新社
直近営業CF/1株	45.0	58.7	95.8
12/15終値	273	756	2,660
倍率	6.1	12.9	27.8

東北新社につきましては前期値を使用しております。

営業CFは、前年同期比1,763百万円改善し、1,136百万円となりました。

また、1株当たり営業CFは45.0円となり、株価営業CF比率は6.1倍となっております。(当社におきましては、前期の赤字が大きく影響しており、平均CF金額が小さくなっております。)

当期も営業権及び連結調整勘定等の非キャッシュ項目が多く、1株当たり営業CFの更なる改善を見込んでおります。

業績推移 (単体)

TV-CM事業の再構築やグループアドミニストレーションの合理化を実行し、16年9月期の単体業績は、

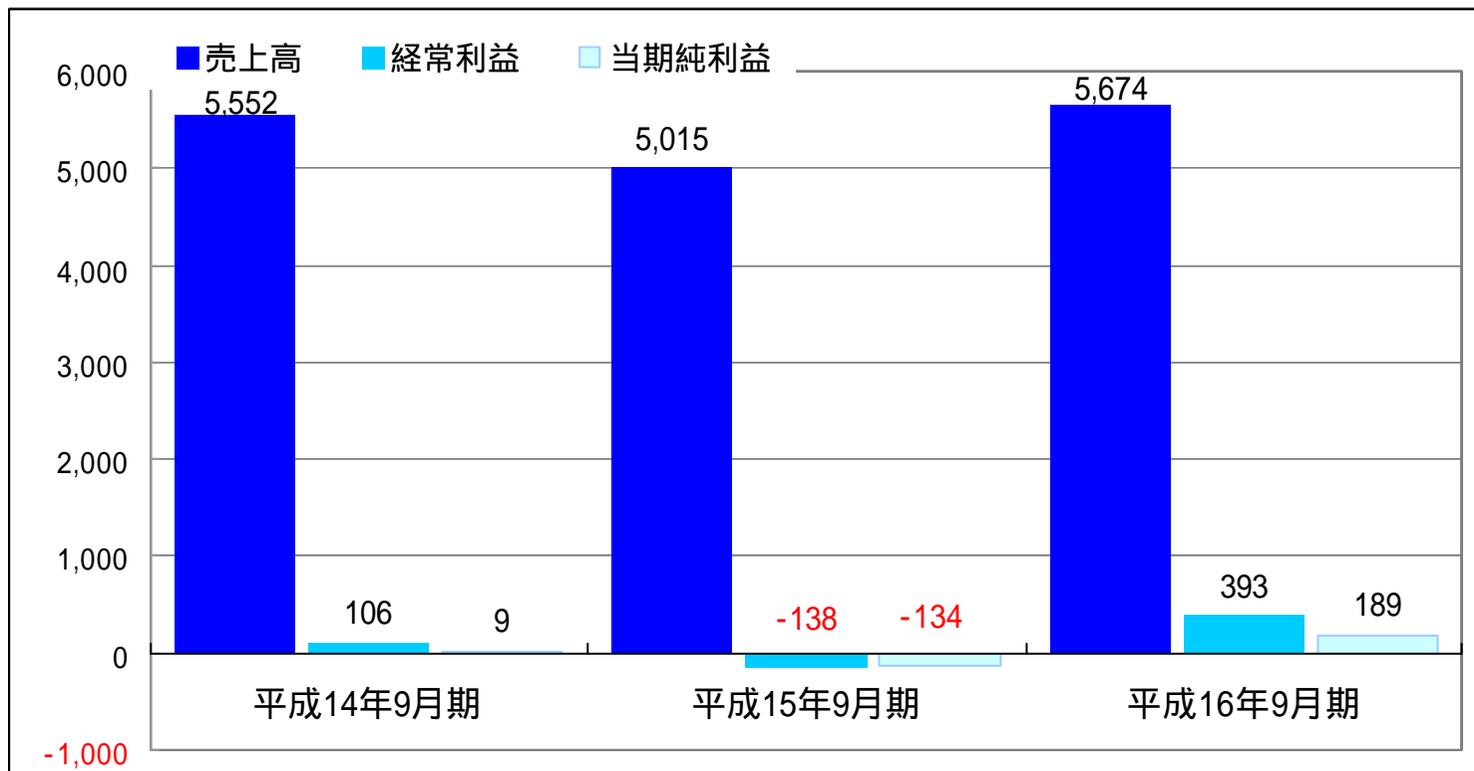
売上高5,674百万円 (前年同期比13%増)

経常利益393百万円 (前年同期は138百万円の赤字)

当期純利益189百万円 (前年同期は134百万円の赤字)と正常化いたしました。

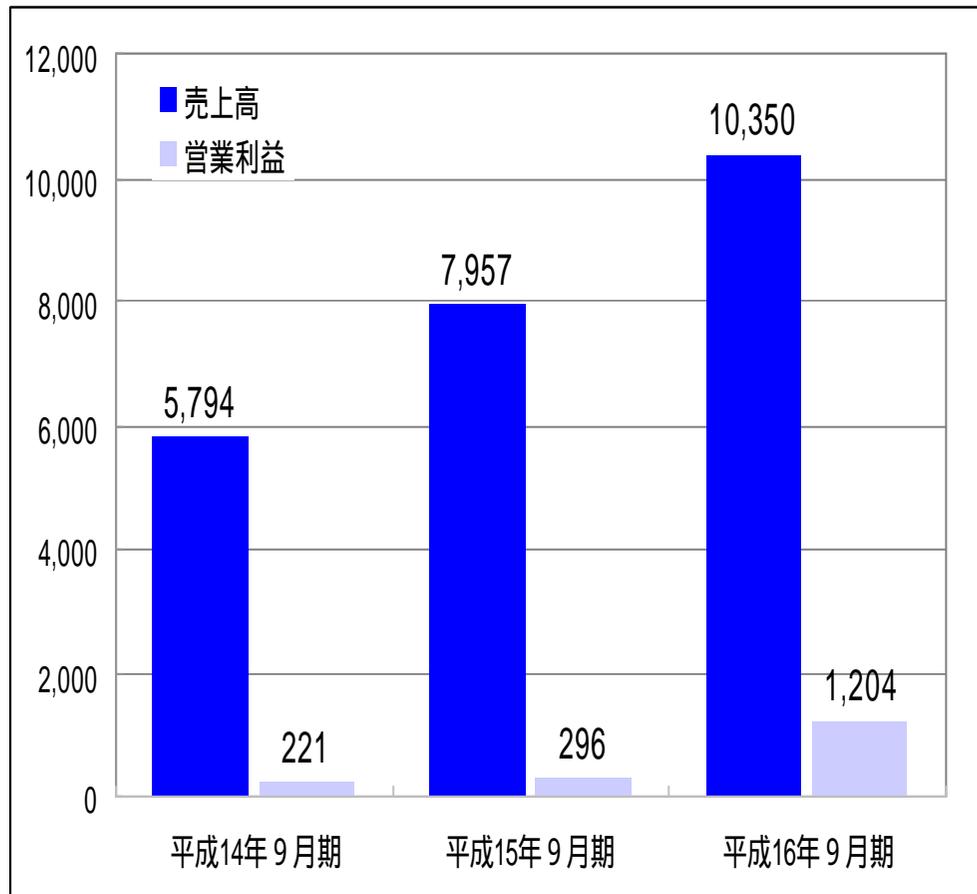
今後についても、継続的な安定収益を見込んでおります。

(単位:百万円)



広告映像事業

(単位 :百万円)



広告映像事業につきましては、
売上高 10,350 百万円 (前年同期比30%増)
営業利益 1,204 百万円 (前年同期比306%増)
 となりました。

(営業権及び連結調整勘定償却額が113百万円含まれております。)

今後、インターネットや携帯電話のブロードバンド化による広告映像ニーズの多様化やエンタテインメントとインフォメーションの融合した映像コンテンツの拡大等が予想され、TV - CMとインタラクティブ・コンテンツの両側面でノウハウを有する当社グループの優位性を活かしたビジネス展開を目指してまいります。

広告映像事業マーケットにおける弊社グループ概況

TV-CM制作市場

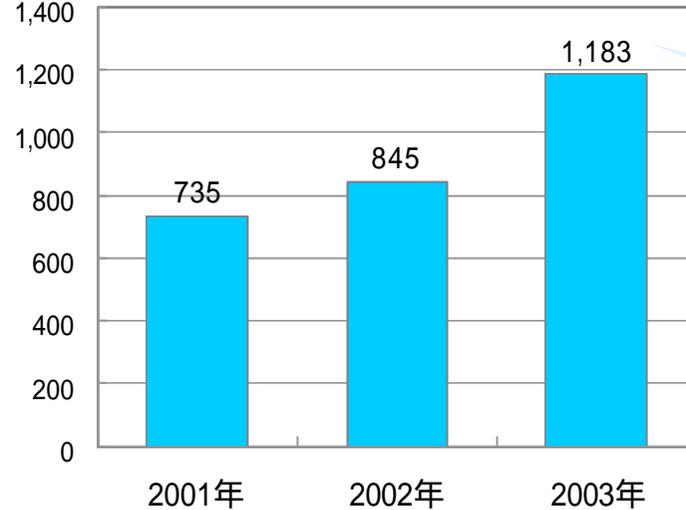
TYOグループ 112億円



2003年電通「日本の広告費」より

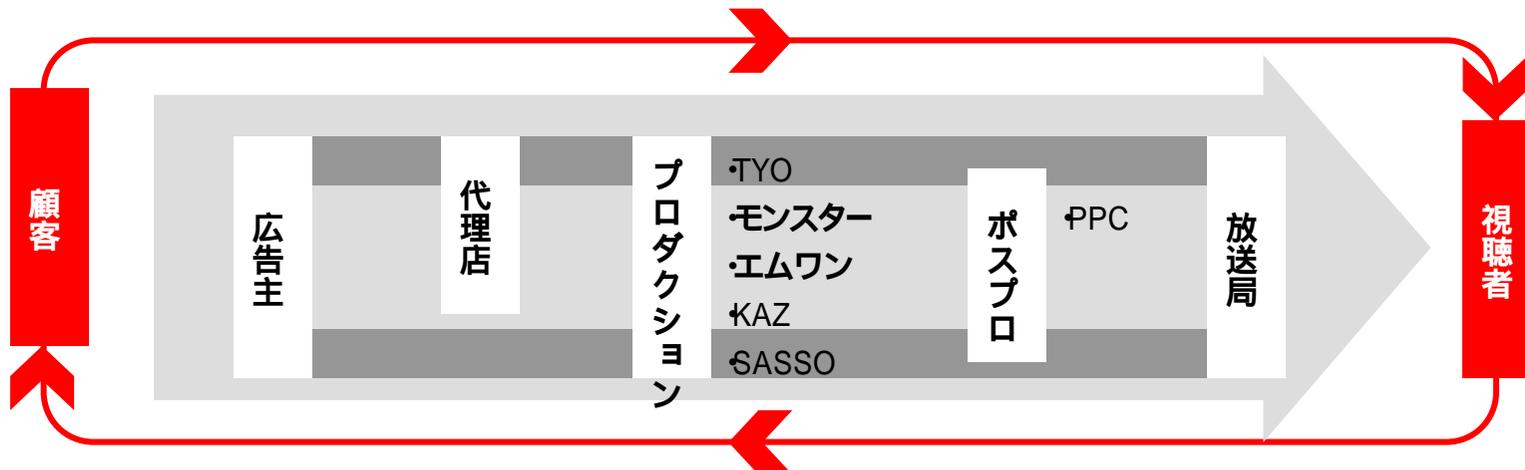
拡大傾向にあるインターネット広告市場

(億円)



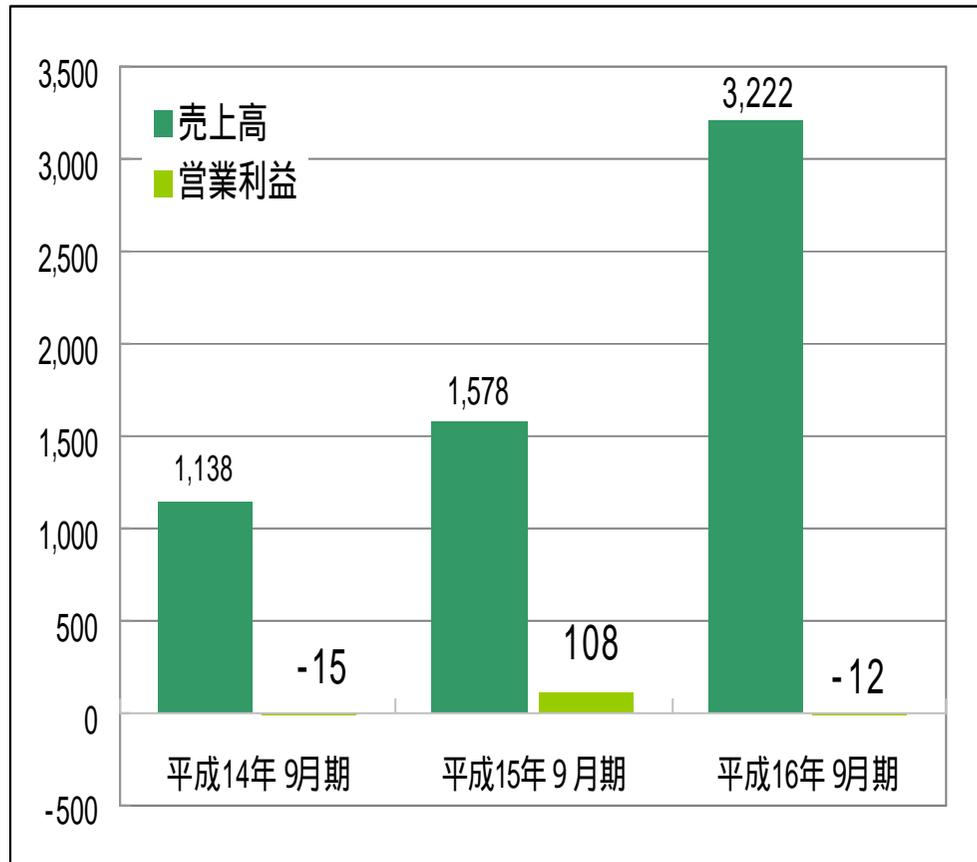
うちモバイル
100億円

TV-CM受注から制作、ON-AIRの流れ



エンタテインメント事業

(単位 :百万円)



エンタテインメント事業につきましては、売上高では増収となりましたが、残念ながら営業利益は連結調整勘定の償却負担が重く

売上高 3,222百万円 (前年同期比105%増)

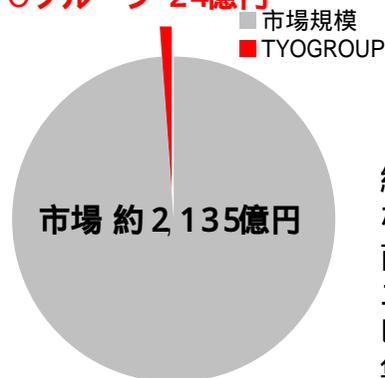
営業利益 12百万円 (前年同期は108百万円の黒字)となりました。

(エンタテインメント事業拡大のための積極的なM&Aによる連結調整勘定が107百万円含まれております。)

今後、各部門のブランドの複数化や、映画製作やTV番組制作等の企業をグループ化し、エンタテインメント事業領域を更に拡大することにより、当社グループの中核事業として育ててまいります。

アニメーション市場

TYOグループ 24億円

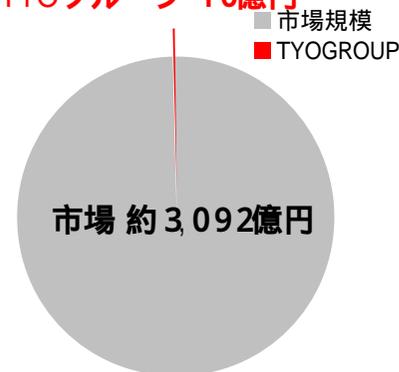


2002年電通総研「メディア白書」より

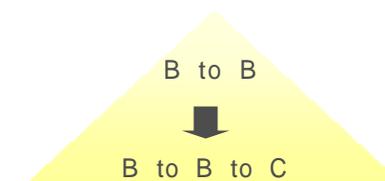
世界のアニメ放映のうち約60%が日本のアニメとなっております。この世界商品を制作する日本のアニメプロダクションの80%以上が練馬区・杉並区に集中。このアニメ特区にTYOグループの資本を投入しグローバル戦略を展開してまいります。

ゲームソフト市場

TYOグループ 10億円



2004年「テレビゲーム産業白書」より



市場規模は、小売ベースでのソフト販売額であり、ソフトメーカー受託制作型を中心とするTYOグループシェアは、非常に低い水準となっております。今後、リスクヘッジを図りつつ投資・開発型のソフト開発ビジネスを行っていくことにより、グループシェア拡大を実現してまいります。

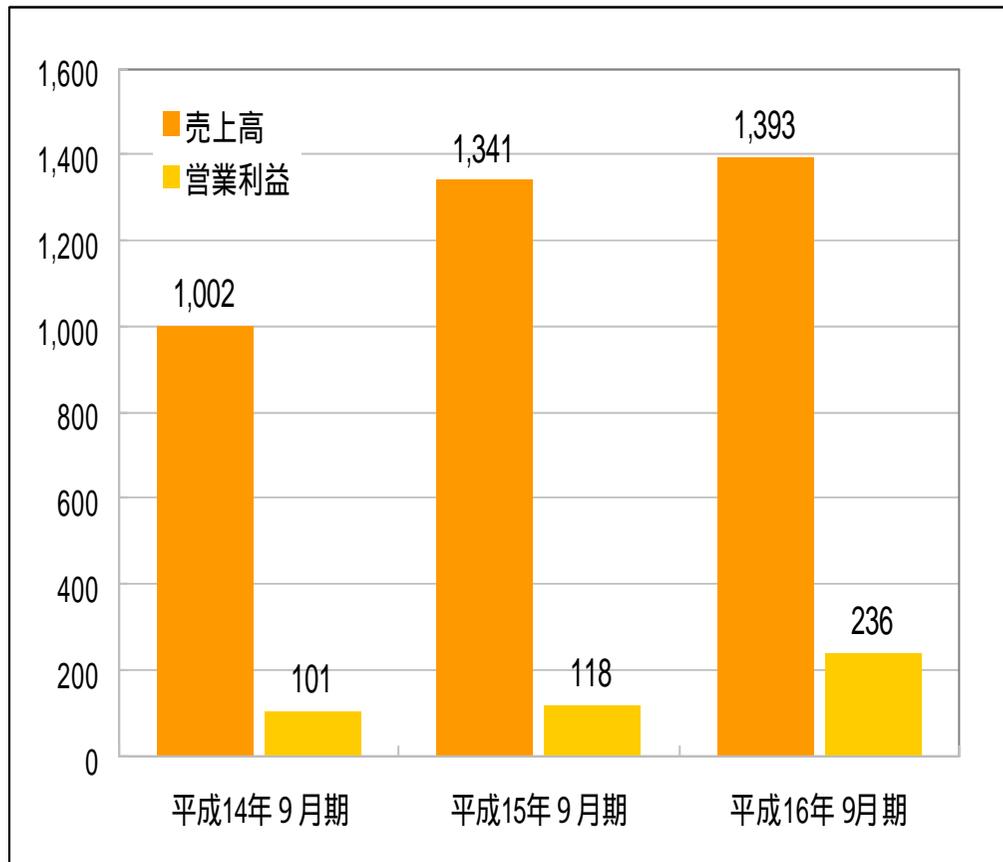
中国市場への参入方針

現在、アニメーション制作とTV-CM制作をキーポイントに法律面やマーケット状況をリサーチ中。中国経済拡大に伴う広告出稿意欲は拡大しており、絶好の参入機会だと認識しております。

また、アニメーションについても国策として重点課題となっており、積極姿勢が見られます。現地企業のM&Aもしくは合併企業の設立等を検討中であります。

コンテンツ・ソリューション事業

(単位 :百万円)



コンテンツ・ソリューション事業につきましては、
売上高1,393百万円 (前年同期比31%増)
営業利益236百万円 (前年同期比100%増)
 となりました。

(連結調整勘定が23百万円含まれております。)

グループの拡大に伴ってソリューションの提供
 範囲が拡大しており、グループのスケールメリッ
 トを活かした共同サービスや購買機能によるコ
 スト・コントロールや、クライアントニーズにマッチ
 したサービスの向上を図ってまいります。

広告映像事業拡大との相関性

TV- CM制作と密接に関係するポストプロ部門と撮影関連事業は、グループ全体として仕事の絶対量が増加することにより、編集室やエディター、機材やカメラマンの稼働率が高くなり、空室率や未稼働日数が減少して、収益性が大きく改善しつつあります。

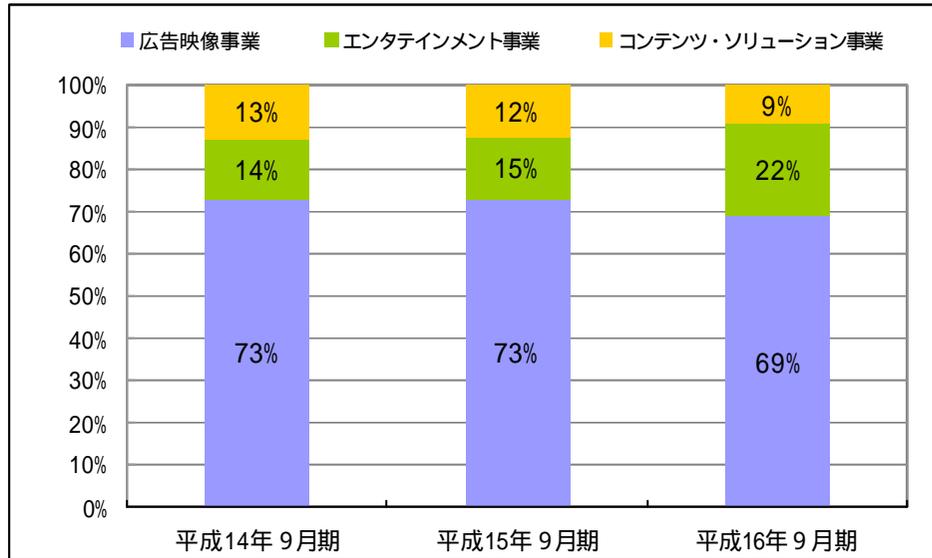
今後もグループ拡大に合わせた設備投資や、他社とのアライアンスを行うことにより、売上を拡大するのみではなく、グループのバイイングパワーを活かし、仕入れコスト削減等に着手することで、さらなる収益改善が見込まれます。

エンタテインメント事業拡大に伴うソリューションの拡充

現在のコンテンツ・ソリューション事業は、比較的広告映像への依存度が高くなっておりませんが、エンタテインメント事業領域のボリューム拡大(各部門の売上高が増加するだけでなく、様々な形態の事業がグループ化されること)により、アニメーション用のポストプロ業務や、スタジオ業務等への事業範囲の拡大を行うことが可能となります。

また、未開拓分野への設備投資等もグループの売上状況を見つつ柔軟に行っていく方針であります。

セグメント構成比推移表



売上高推移

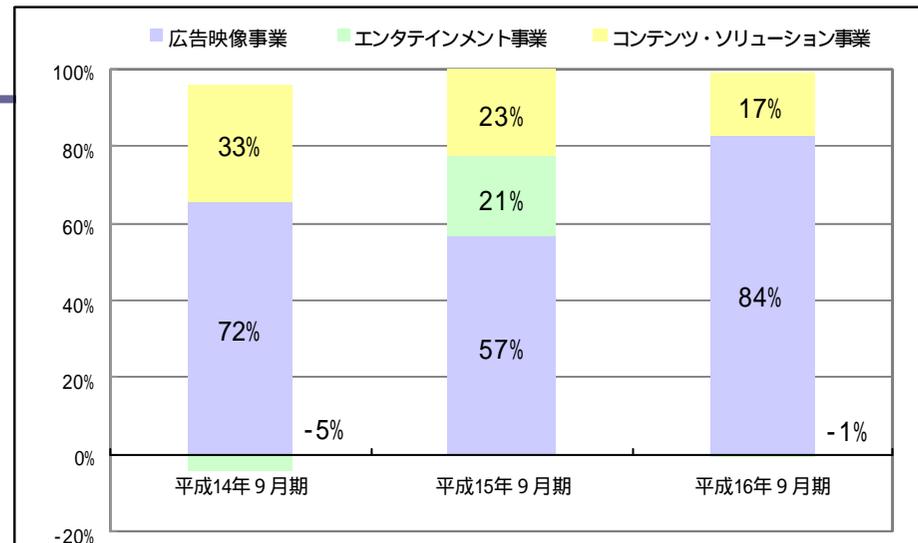
売上高につきましてはエンタテインメントの占める割合が増加傾向にあります。

2010年までには連結売上高目標400億円のうち**広告映像事業50%、エンタテインメント事業+コンテンツ・ソリューション事業50%**を目指してまいります。

営業利益推移

営業利益につきましては、売上高でのエンタテインメントの伸びはありつつも、連結調整勘定償却等で利益が吸収されてしまうため、依然**広告映像事業**の占める割合が増加しております。

今後、**広告映像事業**の継続的な拡大および**エンタテインメント事業**の急速な拡大により、**コンテンツ・ソリューション事業**もグループ拡大と連動して拡大し、**ポートフォリオを平準化**してまいります。



中期経営計画とそのポイント

1. 中期経営計画数値

(単位 :百万円)

	平成17年 9月期	平成18年 9月期	平成19年 9月期
売上高	16,800	20,500	22,500
経常利益	940	1,300	1,800
税引前当期純利益	880	1,300	1,800
実質税引前当期純利益	1,150	1,500	2,000
増加グループ社数	-	-	-
グループ総数	20社	20社	20社

- (注)
1. 実質税引前当期純利益は、販売費及び一般管理費より営業権・連結調整勘定償却を控除し、特別損失より過年度役員退職慰労引当金を控除した、当該期における実質的な利益を示しております。
 2. グループ会社の増加を加味せず現状グループ社数での計画であります。

当社といたしましては、この中期経営計画をM&A等で前倒し実行していく方針であります。

2 中期・長期事業計画方針

投資型ビジネスへの経営資源の配分

受託型ビジネスによる安定的な収益確保に加え、投資型ビジネスを加えることにより、窓口権や著作権等を確保し、収益の多様化を実現し、映像コンテンツ・ビジネスにおける相乗効果を狙ってまいります。投資型ビジネスを拡大することにより、リスクも拡大いたしますが、製作委員会等から映像制作等を受託し、制作利益を確保して投資損失をヘッジしてまいります。

【6年9月期投資実績】 19ページご参照ください。

アップルシード (DF/CG映画)、東京ゾンビ (DF/実写映画)、真夜中の弥次さん喜多さん (TYO DF/実写映画)、モンスターレーサー (HAL製作/日仏合作アニメ)、リヴィエラ (STHING/ゲーム)、他・・・



©土曜正宗青心社「アップルシード」フィルムパートナーズ

海外戦略

国際戦略の面においては、海外プロダクションとのアライアンスによるコンテンツ制作能力の強化とコスト・コントロールに現在も着手しておりますが、海外のクリエイティブ・エージェンシーやプロダクションへの資本参加も検討してまいります。また、国内において実現化しつつある「マルチブランド戦略」を核とした「クリエイティブ・ビジネス都市」を、東アジアやEU等方面へも展開することを視野にいれております。



子会社上場方針

今後、当社グループの財務改善や連結子会社の事業的な拡大を目的として、単独上場が可能な連結子会社については、子会社上場も視野に入れた対応を行っていく方針です。現在の簿価ベースで計上されている連結子会社の企業価値が顕在化することにより、グループ全体としては資金調達や資本拡大につながり、グループ全体の成長速度をあげることとなります。

赤字子会社について

子会社名	現状	今後の見込
ULTRA	高収益を生み出すためのビジネスモデル確立に至らず、6/30付で社長および取締役1名を交代し、コストセーブを行いブランド再構築。H16年10月より黒字化実現。	新社長によりコストセーブしつつもブランド構築を推進。CM・ミュージッククリップ・番組の企画・プロデュースから制作までオールラウンドに活躍の幅を広げる。
DWARF	CMディレクター業務を一時中断し、NHKキャラクターの「どーも君」に継ぐキャラクターとして、コマ撮りアニメーション「こまねこ」の映画化に邁進。再来期の公開に向け事業計画を実行中。	「こまねこ」がシネマライズ系の単館映画館で放映中。グッズ販売等も手がける。キャラクターの確立によりロイヤリティー等の安定収益を確保する方針。
HAL	グループ化前の赤字プロジェクトの影響が大きく、大幅な赤字計上となった。	今期については優良なプロジェクトを受注しており、制作体制強化により黒字化見込み。
TYO Administratin	当期は181百万円の赤字（予算対比55百万円の赤字縮小）。グループ拡大による収益増加と管理業務合理化を実行し、3期目で単年黒字計画。	今期は101百万円の赤字見込み。（グループ拡大分は折り込まず。）

投資実績

投資案件表

(単位:千円)

会社名	タイトル	ジャンル	出資金額	出資比率	窓口権等	公開予定
TYO	アップルシード	CG映画	17,000	非公開	CM使用優先権	国内公開終了 2005春米公開予定
DF			15,000	"	成功報酬	
DF TYO	東京ゾンビ	実写映画	39,000	"	国内メイキングVIDEOレンタル・セル	
TYO	さよならみどりちゃん	実写映画	7,000	"	CM、WEB制作ファーストオプション	2005夏公開予定
MAZRI			3,000		"	
TYO	真夜中の弥次さん喜多さん	実写映画	20,000	"	"	2005春公開予定
HAL	モリースターレーサー	日仏合作アニメ	100,000	"	2D制作 著作権2.5% アジアライセンス	2005秋世界50ヶ国で放映予定
STING	リヴィエラ	ゲーム	30,000	100%		好評発売中

コンテンツ・ファンド概要

平成16年11月25日、当社(株)東北新社 住信インベストメント(株)にて映像コンテンツ投資を目的としたコンテンツ・ファンドを設立。

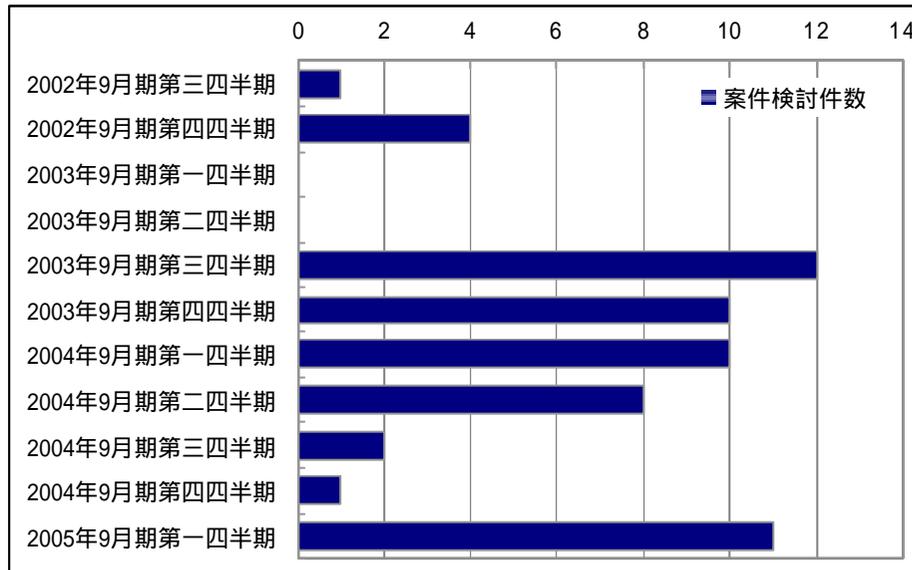
ファンド規模 今後募集する追加出資者分を含め総額15億円程度に拡大する方針。

ファンド趣旨 映像コンテンツ制作に関する資金面のリスクをシェアするのみではなく、映像コンテンツビジネス全般においてコラボレートすることにより、良質な映像コンテンツを制作し、収益性の高いプロジェクトを生み出すことが可能。

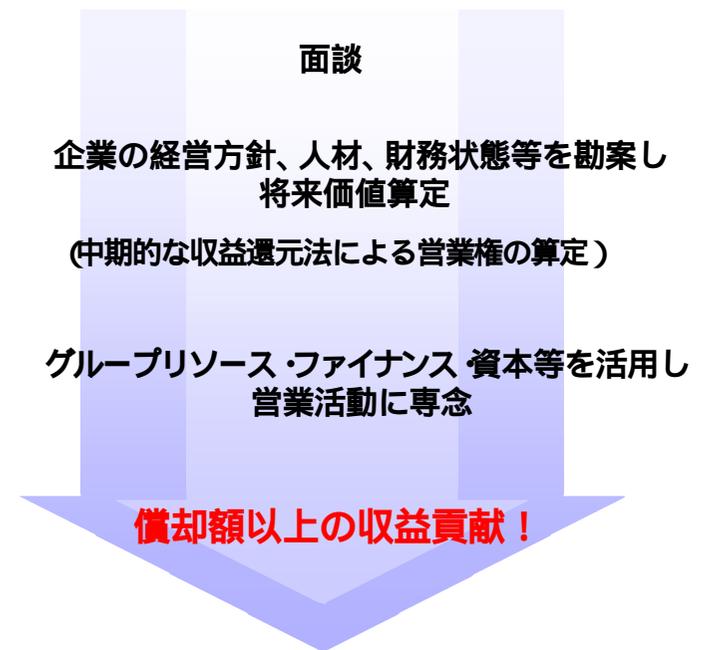
投資対象 劇場用映画、アニメーション、ゲーム等 (現在、劇場用映画、ゲーム、アニメを投資委員会にて検討中)

M&A方針

案件検討数推移



M&A方針



平成16年9月期中にM&Aによりグループ化した会社の平成17年9月期連結貢献見込額

会社名	ネット取得金額	売上予算高	経常利益予算	当期純利益予算	連結調整勘定	グループ貢献利益
ハルフィルムメーカー	-	-	-	-	-	-
サツフィルムズ	-	-	-	-	-	-
ネクシスコミュニケーションズ	-	-	-	-	-	-
ジェンコ	-	-	-	-	-	-
合計	333	3,818	261	195	107	88